

本書を利用される方へ

- 1 この「保健統計年報」(人口動態統計編)は平成29年の人口動態統計についてとりまとめたものである。出生、死亡、死産については平成29年中に発生したもので、平成30年1月14日までに届け出られた日本人の日本における事件を住所地別(平成29年12月31日現在)に集計したものである。婚姻、離婚は、平成29年中に届け出られた日本人の日本における事件を、婚姻は夫の住所地別に、離婚は別居する前の住所地別に集計したものである。計数は可能な限り厚生労働省の人口動態確定数を用い、公表されていない計数については県医務課集計によった。

2 用語の解説

| | |
|---------|---------------------------------|
| 自然増加数 | 出生数から死亡数を減じたもの |
| 乳児死亡 | 生後1年未満の死亡 |
| 新生児死亡 | 生後4週間未満の死亡 |
| 早期新生児死亡 | 生後1週間未満の死亡 |
| 死産 | 妊娠満12週以後の死児の出産 |
| 周産期死亡 | 妊娠満22週(154日)以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの |

3 表章記号の規約

計数のない場合

統計項目のありえない場合

計数不明又は計数を表章することが不適当な場合

比率が微小(0.05未満)の場合

(この報告書に掲載の数値は四捨五入のため、内訳の合計が総数に合わない場合もある。)

4 各比率の算出方法

$$(1) \text{出生・死亡・婚姻・離婚率} = \frac{\text{年間(出生・死亡)数、年間(婚姻・離婚)件数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$$

$$(2) \text{自然増減率} = \frac{\text{年間出生数} - \text{年間死亡数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 1,000$$

$$(3) \text{乳児死亡率} = \frac{\text{年間乳児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$(4) \text{新生児死亡率} = \frac{\text{年間新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$(5) \text{ 死産率} = \frac{\text{年間死産数}}{\text{年間出産数(年間出生数+年間死産数)}} \times 1,000$$

$$(6) \text{ 早期新生児死亡率} = \frac{\text{年間早期新生児死亡数}}{\text{年間出生数}} \times 1,000$$

$$(7) \text{ 周産期死亡率} = \frac{\text{年間周産期死亡数}}{\text{年間出生数+年間の妊娠満22週以後の死産数}} \times 1,000$$

$$(8) \text{ 死因別死亡率(年間)} = \frac{\text{年間の死因別死亡数}}{\text{10月1日現在日本人人口}} \times 100,000$$

$$(9) \text{ 年齢調整死亡率} = \frac{\left\{ \begin{array}{l} \text{観察集団の各年齢} \\ \text{(年齢階級)の死亡率} \end{array} \times \begin{array}{l} \text{基準人口集団のその年齢} \\ \text{(年齢階級)の人口} \end{array} \right\} \text{の各年齢}}{\text{基準人口集団の総数}} \text{の各年齢(年齢階級)の総和}$$

$$(10) \text{ 標準化死亡比(SMR)} = \frac{\text{現実死亡数}}{\text{期待死亡数}} \times 100 = \frac{\text{地域の死亡数}}{\text{(地域の年齢階級別人口} \times \text{年齢階級別全国の死亡率)の総和}} \times 100$$

$$(11) \text{ 母の年齢(年齢階級)別出生率} = \frac{\text{ある年齢(年齢階級)の母が1年間に生んだ子の数}}{\text{10月1日現在における日本人女性のある年齢(年齢階級)人口}} \times 1,000$$

$$(12) \text{ 合計特殊出生率} = \left\{ \frac{\text{年間の母の年齢別出生数}}{\text{10月1日現在年齢別女性人口}} \right\} \text{15歳} \sim \text{49歳までの合計}$$

(都道府県別は5歳階級で算出し、5倍したものを合計している。)

$$(13) \text{ 総再生産率} = \left\{ \frac{\text{母の年齢別女児出生数}}{\text{年齢別女子人口}} \right\} \text{15歳} \sim \text{49歳までの合計}$$

5 比率算出に用いた基礎人口

全国「人口推計」(総務省統計局)

佐賀県「推計人口」(県統計分析課)

(平成29年10月1日現在)

全国 124,648,471人

佐賀県 819,000人

男 387,000人

女 431,000人

市町別 静態第3表参照

6 死因分類

本書で用いる人口動態死因統計分類基本分類表(「死因基本分類表」という。)は、平成7年からはWHOが勧告した「第10回改訂国際疾病、傷害および死因統計分類(ICD-10)」を使用している。これに伴う死因分類の改正により、死因の年次推移は完全な内容の一致をみることはできない。